

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500880	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホームみんなの家・南中野	
所在地	〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野1050-8	
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和3年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会資源を大切に考えており、今年はコロナ禍の為ボランティアの方をお招き出来ておりませんが、イベント時には地域の方々をお招きしております。散歩時には気さくに挨拶を交わせる関係づくりが出来ております。また自然に恵まれているので、畑の作物や花々から季節の移り変わりを感じられます。ご利用者の自立支援を念頭に、その方に寄り添った支援を充実させることを目指しています。ご家族様との信頼関係づくりも充実されています。職員が生き生きとした仕事出来る様に希望休が取れる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR大宮駅東口よりバスで17分「小松台」バス停下車、徒歩5分程にある、鉄筋コンクリート3階建3ユニット、定員27名のグループホームである。自然豊かな住環境で、施設前にはお堂「十王尊」があり、市の天然記念物に指定された大銀杏が紅葉し、四季の移り変わりを身近に感じることができる。同一敷地内に介護付有料老人ホームがあり、相互に協力し合っている。「アットホームなグループホームを目指す」をモットーとして掲げ、地域住民との交流の下、一人ひとりの趣味や嗜好を尊重し、その人らしさを大切に、家庭的で穏やかな雰囲気の中でその方らしい毎日を過ごせるよう、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。経験豊富なホーム長は職員の働きやすい環境づくりに配慮しており、入居者共々いきいきとした表情で支援にあたっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「アットホームなグループホームを目指す」という理念を踏まえご利用者様一人ひとりの趣味や嗜好を尊重し、その人らしさを大切にした対応を心掛けています。	理念を玄関や各スタッフルームに掲示し、いつでも確認できるようにしている。定例の職員会議で振り返り、意識の共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域との関りや地域行事に参加していたが、新型コロナウイルスにより現在は大家さんと自治会長さんとの連絡を通じて情報収集や交換を行っています。	自治会に加入し、地域との関わりを持っており、従来は地域のイベントに参加したりして交流を図っていたが、現在はコロナ禍によりできていない状況にある。敬老の日には近隣の幼稚園児からお祝いの作品を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域・近隣の方々の急な見学や電話での問い合わせの際には、認知症などの理解をして頂けるよう十分に説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議や家族会を開催していましたが、昨年度は新型コロナウイルスの為実施出来なかった。その為書面にてご利用者様の様子やホームの運営状況等報告しその際意見や要望を頂きサービスの質の向上・改善に繋がるように努めております。	現在、本会議を休止している状況であるが、行政には2ヶ月に1度、状況報告を書面にて行っている。家族には毎月「一言通信」を送付し、ホームでの暮らしの様子などを伝えている。	本会議は地域の理解と支援を得る貴重な機会であり、重要な位置づけとなっているため、コロナ収束後は地域住民にも声掛けし、参加を募り、開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を呼び掛けています。また適宜役所の担当者と電話連絡にてコロナ関連の情報などを得ています。また事故が発生した場合の報告は本社を通じて提出しています。	解らない事、相談等、担当者と適宜に電話連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束について学び、話し合い注意喚起している。玄関のカギは防犯上施錠しているが、いつでも外出出来るようになっています。	本社から研修テーマが提示され、身体拘束について学んでいる。全職員が拘束による弊害やリスクを理解し、意識の共有を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会では虐待についても話し合いを行い、虐待を学ぶ機会としています。虐待を学び、知識を得る事で職員同士で注意をし防止となる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適切なアドバイスが出来るよう研修等で知識を深め、活用出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い理解、納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時には意見交換を行い要望等運営に反映出来るように取り組んでいます。現在コロナ禍により面会等自粛している為、書面にて意見や要望を伺っている。	コロナ禍により面会等を制限しているため、電話や書面などで意見や要望を頂いている。出された意見は会議等で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談を行っている。また随時声掛けにて状況確認を行い、意見が言い易い環境づくりに努めている。	年2回、個人面談があり、意見を聞く機会を設けている。ホーム長は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、話しやすい雰囲気づくりに留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度の人事考課をしている。また資格制度や年に一度の昇格制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修の案内を掲示し、参加する機会を設けています。研修で学んだ知識や情報等は職員会議の場等で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の介護付き有料老人ホームと合同でイベントを開催したり、お互いのイベントに参加を呼び掛けたりと交流の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時ご本人様より直接お話を伺い、不安・心配事・要望を把握し少しでも安心して頂けるような環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時ご家族様ともお話を伺い、安心して頂けるに説明を行っています。入居後も連絡を取り合う事でより良い関係を築いていけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には柔軟な態度で臨み、必要としている支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事を一緒に行ったりと共に暮らす者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有し共にご利用者様を支えていく関係を築いています。また家族の絆を大切にすることを支援します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方の来訪を歓迎していますが、現在はコロナウイルス感染予防の為面会や外出を制限しており、関りが出来ない状況である。	入居時のアセスメントや日々の関わりから馴染みの関係を把握し、家族の協力の下、行きつけの美容院へ出掛けたり、学生時代の友人の訪問の受け入れなどを行っていたが、現在はコロナ感染予防のため自粛して頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好なコミュニケーションがとれるように必要に応じて座席の配置を工夫したり、職員が間に入り会話の橋渡しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話や来館による相談に応じる用意が出来ていることを伝えており、必要に応じて連絡を取り合い、出来る限り支援が出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時ご本人の生活歴を始め、趣味や嗜好を聞き取り、どのように暮らしていたか確認している。困難な場合でも表情や日常の様子から汲み取れるように努め、ご本人様の立場になって検討しています。	アセスメントや生活歴、日々の関わり、本人の言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。家族と相談し、協力を頂きながら、どのように暮らすことが最良なのか、日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より今までの生活環境を聞き取り、入居後も生活環境が大きく変わらないように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子やバイタルチェックなどを行い現状の把握に努めご利用者様のペースで過ごして頂けるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスによりそれぞれ意見を述べ合って、皆で介護計画を作成している。必要に応じて臨時カンファレンスを設けることもあります。	本人、家族の要望を伺い、全職員で意見交換をした上で計画を作成している。状況変化の都度、話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り等の記載により、職員間での情報共有が出来るように努めています。毎月のカンファレンスで、サービスの見直し・変更等を検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状変化時やその時のニーズに合わせて柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントの際には地域ボランティアの方々がイベントを盛り上げて楽しませてくれましたが現在コロナ禍の為ボランティアの方々の活動を制限させて頂いております。また再開できる日を楽しみにしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認契約を行っています。提携医とは24時間オンコール体制を敷いて連携を築いている。	希望するかかりつけ医の受診支援を行っており、通院は家族対応となっている。協力医の内科、歯科の訪問診療が各月2回あり、歯科衛生士の訪問は週1回となっている。協力医とは連絡を取り合い、随時、指示を頂き、対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問看護に状態を記録し情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会にて様子を伺い、ご家族様や看護師との情報交換を行ったり、相談員と連絡を取り合う事で連携強化に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアについては、契約時にホームの指針を伝え同意を得ている。看取り時は面談をまめに行いご家族様の意向を再確認している。また職員間の統一を図る為まめに話し合う機会を設けている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明の上、同意を得ている。状態変化の都度、意向を確認し、職員、医師が連絡を取り合いながら方針を共有したうえで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全スタッフが対応を出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。隣接の施設との協力体制も整っています。また親会社の警備会社にも通報が行く仕組みになっています。	消防署に届け出をし、7月に入居者、職員が参加の初期消火、避難訓練を行っている。次回は11月に、夜間想定をした訓練を予定している。災害時用の水や食料品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各ご利用者様の様子や性格に合わせた声掛けや対応を行っています。職員間でも声掛けを意識し、配慮しながら取り組んでいます。	入居者の居室に入るときは必ずノックをし、プライバシーに配慮している。声掛けは本人の身体状況や性格などを考慮し、表現、声の大きさなど適切な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中常に自己決定が出来る機会を設けています。またご利用者様の気持ちや表情にも注意し意思を汲み取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に、希望に沿った一日を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の意思・希望を尊重した上でカットやパーマ・カラー等を行ったり、衣類も要望に応じて用意出来るように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様一人ひとりに合った食事形態にしています。季節の特別メニューを楽しみにされ、食器拭きや片付けを一緒に行っています。レクおやつは分担を決め一緒に作っています。	チルド食の導入によりメニューが豊富になり、一人ひとりに合った食事形態で提供している。ご当地メニューや行事食、手作りおやつの日を設け、ホットケーキの季節の果物添えやサツマイモを使ったスイートポテトなどを職員と一緒に作り、楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分摂取量を記録し、少ない方には声掛けや提供方法を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士の指導の下、毎食後に各ご利用者様にに応じたケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成しトイレでの排泄を基本に、ご利用者様一人ひとりが自立に繋がる排泄介助に取り組んでいます。状況変化時も柔軟な対応が出来るよう、常に職員間で情報を共有しています。	排泄チェック表により個々の習慣や排泄パターンを把握し職員で話し合い、一人ひとりに沿った対応方法を検討している。自尊心に配慮し、さり気なく声掛け誘導し、トイレでの排泄を目標としながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携を図り水分補給や乳製品の摂取などを行い、スムーズな排泄が出来るよう支援しています。ご利用者様によっては体操を取り入れたり、トイレで踏ん張りやすいよう足置きを用意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に沿って入浴が出来るように支援しています。拒否のある方には無理強いせず声掛け等工夫したり、季節のゆず湯やしょうぶ湯を提供しています。	3日に1回のペースで個々の希望に沿って一人ひとりがゆっくりと入浴して頂けるよう支援している。拒む方には無理強いをせず、声掛けや時間をずらすなどの工夫をしている。四季を感じて頂けるよう、季節のゆず湯等を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに応じて安眠出来るように支援しています。また日中も体調を見ながら休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報ファイルを設けており、いつでも確認出来るようになっています。変更時は申し送りや会議で確認を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者様の得意分野や役割、楽しみなど活躍できる場を考え、提供出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛ける機会を設け四季を感じて頂いています。家族や地域の方とは現在コロナウイルスの為交流出来ない状況です。	コロナ対策のため、面会や外出を自粛して頂いているが、天気の良い日には少人数で近所を散歩する等、気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金の管理は事業所にて行っているが、ご本人様の状況に応じて、ご家族様了承の下、少額の現金を持って、買い物に出掛けることがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はいつでも使用出来るようになっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節を感じて頂けるような飾りを工夫しています。特に空調に気を付け定期的に換気を行っています。	共用部分のフロアは彩光が充分で明るく快適な空間となっている。紅葉やコスモスの貼り絵、ハロウィンの飾り付けをし、季節を感じて頂いている。空調に気を配り、室温、湿度を管理し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に過ごして頂けるようになっています。またその方の気に入る居場所を探し出し提供出来るように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご利用様の意向を聞きながら希望に沿った居室づくりに取り組んでいます。ご自宅に居るように使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	今までの生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出のもの、椅子や机、アルバム等を持ち込んで頂き、自分の家として居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室に入るときは声掛けをし、室内は職員が清掃して常に清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付け混乱がない様にしています。またタンス引き出しにはラベルを貼りご自身で何が入っているか分かりやすくしています。		

目標達成計画

作成日:令和 3 年 11 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	参加者が同じメンバーになりがちである	参加者を募り地域の理解と支援を得られるように努める	コロナ収束後はご家族様や行政関係者・地域関係者へ会議参加への呼びかけを定期的に行っていく	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。